

令和8年度 事業計画書

目 次

I. 部門別事業計画

1	法人	
	1. VISION	
	2. 中期経営計画	
	3. 事業計画（アクションプラン）	
2	麗澤大学	
	1. VISION	
	2. 中期経営計画	
	3. 事業計画（アクションプラン）	
3	麗澤中学・高等学校	
	1. VISION	
	2. 中期経営計画	
	3. 事業計画（アクションプラン）	
4	麗澤瑞浪中学・高等学校	
	1. VISION	
	2. 中期経営計画	
	3. 事業計画（アクションプラン）	
5	麗澤幼稚園	
	1. VISION	
	2. 中期経営計画	
	3. 事業計画（アクションプラン）	

II. 組織

1.	役員名簿	
2.	組織図	

III. 予算

1.	資金収支予算	
2.	事業活動収支予算	

法人事務局

令和 8 年度事業計画

はじめに

2035 年を完成年度とする中期経営計画に基づき、各部門が次年度に実行すべきアクションプランを明確化し、中期経営計画に掲げた戦略と方向性を共有し、具体的な取組へと落とし込むことで、学園全体の経営基盤強化およびブランド価値向上を図る。法人事務局は、本計画の着実な実行と次世代へつなげる学園運営を推進する。

1. Vision 『学園の羅針盤となって、次世代へつなぐ『麗澤』の未来を切り開く～TEAM 麗澤、新たな価値の創造～』

創立 100 周年に向け、法人事務局は学園の羅針盤として中期経営計画を着実に実行し、各校・各部門と連携しながら、次世代へつなげる『麗澤』の価値と基盤を確立する。TEAM 麗澤の一員として、経営の可視化と高度化を進め、変化の時代においても持続的に発展する学園運営を牽引する。

2. 中期経営計画（～2028 年度）

- (1) **財務戦略** サバイバル時代を生き抜く、確固たる収益基盤・強固な財務基盤を再構築する
 - ① 経常経費、戦略経費の定義明確化。夫々に応じた予算の策定方法・管理を再構築する
 - ② 予算管理の可視化、追加予算・流用の手続き再検討。予算内運営の意識醸成
- (2) **人材戦略** 学園の進むべき道を照らす人材育成～時代に負けない人材育成制度の構築～
 - ① 人事制度の定着検証と適正な要員計画の検証
 - ② 体系的な教育研修制度の継続実施と時代に即した働き方の推進
- (3) **業務プロセス・DX 戦略** 業務効率の向上と業務の高度化 ～DX 推進による職場環境カイゼン～
 - ① DX & 業務効率化推進委員会（DX によるスリム化・効率化・生産性向上）
 - ② 全教職員の IT スキル向上
- (4) **施設・設備戦略** 施設コストの平準化、財政負担を軽減するファシリティ整備
 - ① 専門業者 BPO による業務・技術水準の向上、業務効率化・業務負担の軽減
 - ② 各施設データの収集・分析、修繕計画等の策定、効率の良いインフラ維持管理・更新
- (5) **収益事業戦略** 麗澤の知見とネットワークの活用。基盤強化とブランド価値の向上に貢献する
 - ① 既存事業の見直し、遊休資産の有効活用。損益の黒字化・内部留保の蓄積
 - ② 公益に対する財務貢献の維持
- (6) **ブランド戦略** 「れいたく」の浸透 ～知徳一体の学校として唯一無二の存在感を示す～
 - ① 麗澤らしさ（ブランド）の理解浸透
 - ② 麗澤各校及びモラロジー道德教育財団との連携
- (7) **組織戦略（将来構想）** 各部門連携し、学園の未来創造を牽引する～新たな価値の創造。チャレンジ！～
 - ① 学園の管理運営・政策実現を担う組織・体制の整備、各部門連携強化
 - ② 中期経営計画 PDCA サイクルの管理徹底
- (8) **内部統制システム**
 - ① 内部統制を基盤としたガバナンス改革の推進（「経営管理・リスク管理・コンプライアンス・監査環境」の 4 本柱を軸に、制度と運用が一体となった透明で適正な法人運営体制を構築）
 - ② 実効性重視のマネジメントによる持続可能な組織運営の確立（規程・体制の整備に留まらず、点検・改善を繰り返す内部統制サイクルを定着させ、環境変化やリスクに強い経営基盤を形成）

3. 事業計画（アクションプラン）

（1）財務戦略

- ① 学校納金改定ルールを確立し、安定的な収入基盤を構築する
- ② 戦略的な寄付金募集施策を検討・実施し、持続的な寄付獲得基盤を整備する
- ③ キャンパス整備計画を策定し、2031 年度までの中期財務シミュレーションを更新する
- ④ AI 等を活用した業務の効率化と高度化を推進する

（2）人材戦略

- ① 人事制度の運用状況を引き続き検証し、公平性・納得性の高い制度運用の定着を図る
- ② 各部門の事業計画等を踏まえ、要員配置の妥当性を精査し、適正な要員計画を策定する
- ③ 階層・役割に応じた体系的な教育研修制度を継続的に実施し、検証・改善を図る

（3）業務プロセス・DX 戦略

- ① DX & 業務効率化推進委員会を継続運用し、各部署の自走化と部署間連携による DX 推進をサポートする
- ② 全教職員の IT スキル向上のため、随時の DX 相談会や定期的な講習会を実施する

（4）施設・設備戦略

- ① 統括管理業務委託業者と協力し、業務運用を策定する
- ② 中長期修繕計画を基にした主要建物の年度計画を策定し、実施する
- ③ 中高エリアを中心とした園内インフラの更新工事計画を立案する

（5）収益事業戦略

- ① 関連企業、校友会、保護者会及び後援会等との連携・協働による新たな収益事業を創出する
- ② 学内遊休施設の活用を図る
- ③ 事業別の損益管理の徹底、黒字・安定化に向けた既存事業の収益力向上を図る

（6）ブランド戦略

- ① ブランド構造の整理および MVV の言語化検討を通じた、2035 年に向けたブランドゴールイメージを確定する
- ② スローガンおよびクレド等の策定・展開によるインナーブランディング基盤を構築する
- ③ 各校・法人横断の連携体制整備によるブランド発信方針および運用ルールを整備する

（7）組織戦略（将来構想）

- ① 中期経営計画 PDCA 管理体制の高度化および進捗可視化の仕組みを確立する
- ② 創立 100 周年に向けた記念事業基本構想の策定および推進体制を構築する（委員会設置を含む）
- ③ 第二期中期経営計画の基本方針を策定し、重点戦略の方向性を決定する

（8）内部統制システム

- ① ガバナンス体制の統合・標準化する
（会議運営、役員連携、リスク対応、監査を横断的に整理し、判断・報告・監督のプロセスを明確化する）
- ② リスク・コンプライアンス管理の高度化を図る
（災害・不祥事・個人情報・カスハラ等への初動対応力を高め、平時からの予防・教育・共有体制を強化）
- ③ 内部統制の実態を点検し、継続的に改善する
（監査結果、リスク事案、研修効果を経営改善に反映し、制度と現場運用の乖離を是正する仕組みを定着させる）

麗澤大学

令和 8 年度事業計画

はじめに

今期中期計画（2026～2028 年度）においては、前期中計（2023～2025 年度）をさらに発展させ、建学の精神（知徳一体）に基づく「世界と地域の未来を切り拓く品格あるグローバル人材の育成」を教育目標とし、文理横断・文理融合型総合大学として、サステナブルな教育・研究活動を展開していく。

1. Vision『世界と地域に貢献する品格あるグローバル人材の育成』

- 建学の精神（道徳科学）に基づく、対話と智恵とテクノロジーの融合
- キャンパスを飛び出し、世界や地域と直に触れ合い、お互いに切磋琢磨する

2. 中期経営計画（～2028 年度）

（1）ワンキャンパスを活かした文理横断・文理融合教育の推進

- ① 文理融合・横断の具体的活動の実施
- ② 多様な学問領域を横断する課題解決型学習の推進
- ③ 学生の主体性を活かすプロジェクト型学習の推進
- ④ 学生・教職員が一体となる教育環境の形成
- ⑤ 社会との連携の推進（地域、国際、産業界等とのリレーション強化）

（2）学生のウェルビーイングの向上

- ① 学生・教職員パートナーシップの充実
- ② 学生の自律的学びと挑戦を支える環境づくり
- ③ 多様性と包摂性を重んじるキャンパス文化の醸成
- ④ 学生の声を大学方針や教育に反映する仕組み
- ⑤ キャリア形成とライフデザインを支える学びの強化

（3）ガバナンスとレジリエンスを備えた持続可能な大学運営

- ① 透明性と説明責任を重視した大学運営
- ② 多様なステークホルダーとの協働による開かれた運営
- ③ リスクマネジメントと BCP の確立
- ④ 高大連携の取り組み強化
- ⑤ 品質と効率性を両立した業務プロセスの充実

（4）新たな知を創出する研究活動

- ① 学際・国際連携による新たな知の創造
- ② 基礎と応用の調和による持続的研究展開
- ③ 研究者の成長を支える環境と倫理の確立
- ④ 世界と地域をつなぐ、知の共創拠点の形成
- ⑤ 道徳科学研究の充実と国際交流

（5）社会と共創し、首都圏で最も活力ある大学へ

- ① 地域・地方自治体との連携による協働プロジェクトの推進
- ② 他大学や企業との連携による新たな価値の創造
- ③ 国際的ネットワークを通じたグローバル共創の推進
- ④ 共創を進める体制の整備と社会への発信
- ⑤ 開かれた学びとリカレント教育の推進

3. 事業計画（アクションプラン）

（1）ワンキャンパスを活かした文理横断・文理融合教育の推進

- ① 「英語力＋デジタルスキル」を有する英語コミュニケーターの育成
- ② 課題解決型学習やグローバル実務経験（地域×国際×社会課題）を通じた実践力の高いグローバル人材の育成
- ③ 麗澤スタンダード科目の体系的な提供（国際派公務員育成・海外大学院修学プログラム）
- ④ 総合安全保障プログラムの全学展開
- ⑤ SDGs フォーラムでの文理融合型新企画の設計・実施
- ⑥ AI・データサイエンス・リテラシーの全学標準化
- ⑦ AI 時代における大学図書館の意義の明確化（図書館利用率の向上、娯楽性の具備）
- ⑧ 新設学部（経営学部、工学部）の戦略的キャリア指導（就職率 100%を目標）

（2）学生のウェルビーイングの向上

- ① 学生の自律的学修を促すポートフォリオシステムの開発・導入
- ② 学生の成功体験の体系的可視化とキャリア形成への活用、麗澤版 Street Smart 人材の育成
- ③ EdTech の活用による学習効果の多面的な評価と可視化の推進（工学部からの標準化）
- ④ iFloor 学生サポートスタッフの多国籍率を高め、多様性と包摂性を推進
- ⑤ 国際共修型キャリア支援プログラムの強化
- ⑥ 学友会組織（CORE）による学生の主体性の発展
- ⑦ 合理的配慮学生の支援満足度向上
- ⑧ 学生が安心して学べる大学運営基盤（規程、制度、業務プロセス、トラブル抑止）の充実

（3）ガバナンスとレジリエンスを備えた持続可能な大学運営

- ① 学部教員間の意思疎通の強化、学部内の効率的な相互理解体制構築
- ② 学びと教育の質保証評価システム構築
- ③ 麗澤瑞浪高校のアントレプレナーシップ教育支援、麗澤高校通信制課程との連携
- ④ 高大連携による高校生へのキャリア設計理解促進
- ⑤ 研究資源の重点配分、プレ・アワード機能の制度化
- ⑥ 法人・併設校と連携したリスクマネジメントと BCP の確立
- ⑦ IR 活用と認証評価対応を通じた教学マネジメント基盤の推進

（4）新たな知を創出する研究活動

- ① 台湾・東南アジア研究を通じた教育内容の高度化
- ② 研究拠点としてのプレゼンス向上、学術ネットワークの構築
- ③ 全ての学部を対象とした学部横断研究活動の実現
- ④ 麗澤版日本語教育モデルの構築（麗澤日本語教育共創ラボ（JALEC））
- ⑤ 学校教育研究科と道德教育センターの連携による道德教育研究の推進
- ⑥ 国際ジャーナル（上位レベル）への論文創出促進

（5）社会と共創し、首都圏で最も活力ある大学へ

- ① 産学連携授業の取り組みによる社会実装効果の創出
- ② 地方自治体・高大連携による「麗澤・地域連携ゼミナール」の拡充
- ③ 学生自主活動の発展、教員アウトリーチ拡充を通じた社会への対外発信強化
- ④ 道德教育を核とした地域学校の教育力向上への貢献
- ⑤ 研究成果の ROCK 講座への還元
- ⑥ PBL 奨励金活動の拡充
- ⑦ 日本語教育人材のためのリカレント教育の充実
- ⑧ 麗澤 DE&I の認知向上と学内実践の推進

以 上

麗澤中学・高等学校

令和 8 年度事業計画

はじめに

中期経営計画の第 1 期（～2028 年度）では、原点である道德教育と最先端教育の融合（道德教育×探究×グローバル×DX×サイエンス）、規律の正しさと道德観・自主性や協調性を育む教育、通信制課程の発展・拡大等を進めていく。

1. Vision『グローバルな舞台で輝く、叡智を持った人材の育成 ～TEAM REITAKU 未来のとびらを切り開く～』

- 国内外の様々な分野で活躍する可能性を秘めた人材育成
- 高い品性と深い叡智を備えた人材を目指し、生徒・教職員が共に成長する

2. 中期経営計画（～2028 年度）

（1）教育戦略

- ① 学校全体に浸透する道德教育の推進
- ② 探究学習プログラムの充実（自分プロジェクト、DX ハイスクール、SSH 整備）
- ③ 留学・海外交流プログラムの提供（留学プログラムの整理、ターム留学、海外校との連携強化）
- ④ 進学実績の維持・向上（国公立大学および早慶上理・GMARCH 以上への進学率 50%以上）

（2）寮教育・生徒指導・特活指導教育戦略

- ① 道德をベースとする学校生活の指針「麗澤スピリット」の浸透
- ② 寮生活を通じた「麗澤スピリット」の実践
- ③ 学習時間と部活動の両立を可能とする時代に合った仕組み・体制の見直し

（3）通信制課程戦略

- ① 特色ある教育スタイルの確立
- ② 通信制課程を通じた麗澤教育、及び「麗澤スピリットの育成」プログラムの開発

（4）経営・人材教育戦略

- ① 教育収支差額の赤字解消（学費見直し、人件費コントロール）
- ② 専門性の垣根を超えた、横断型組織への進化（教職員の交流・意識改革）
- ③ 教員のキャリアパス策定、評価制度の向上及び成長を促す研修制度等の導入

3. 事業計画（アクションプラン）

（1）教育戦略

- ① 学校全体に浸透する道德教育を推進する
 - A) 道德教育の在り方の検討（財団との連携、教職員のモラロジー研修を含む）
 - B) 6 年間の道德の授業の在り方の検討
 - C) 道德授業以外の道德教育の在り方の検討
 - D) 2027 年度文科省道德教育指定校への申請準備
- ② 探究学習プログラムの充実（「言語技術」の学びを活かした特色ある学習）を図る
 - A) 自分プロジェクト、探究プロジェクト振り返りと発展
 - B) DX ハイスクール（第 3 期申請と文理融合と高大連携等デジタル化の推進）
 - C) SSH 体制整備（理科教育設備費等補助金申請準備）、サイエンス推進チーム設立
- ③ 留学・海外交流プログラムの充実を図る
 - A) 留学プログラムの整理（1 年留学）
 - B) ターム留学・海外校との連携強化（オーストラリア、カナダ、アメリカ、イギリス、台湾等）

- ④ 進学実績の維持・向上を図る
 - A) 中学 AE+ 学年進行に伴うプログラムの吟味
 - B) 授業と夜間講座のリンク強化の見直し
 - C) 年内入試、総合型・学校推薦型選抜、海外大学への対策

(2) 寮教育・生徒指導・特活指導教育戦略

- A) 中学生に対する寮生希望者拡大の施策検討と実施
- B) クリーン&マナーアッププロジェクトの実施
- C) 学習時間と部活動の両立を可能とする自己管理能力の育成

(3) 通信制課程戦略

- A) 全日制併設校独自の教育カリキュラム、探究、進路、麗澤大学との連携見直し
- B) 地域関係機関と連携・協働を通じた「麗澤スピリット」の育成
- C) 学費の値上げ等収支改善を検討

(4) 経営・人材教育戦略

- ① 教育収支差額の赤字解消を進める
 - A) 学費、食費等の見直し
 - B) 人件費コントロール
- ② 専門性の垣根を超えた横断型組織への進化を図る
 - A) 教職員の交流・意識改革（麗澤瑞浪、麗澤大学との合同タウンホールミーティングの企画）
 - B) 高大連携による指導力の向上
- ③ 学校教員キャリアパスを策定し、評価制度の向上および業務改革を推進する
 - A) 学校現場に適した評価体制制度の検討
 - B) 職場環境と研修、及び教育経営の充実

以 上

麗澤瑞浪中学・高等学校

令和 8 年度事業計画

はじめに

中期経営計画の第 1 期（～2028 年度）では、従前の計画を継承しつつ（筋肉質の更なる強化）、生徒数の増強・規模拡大を目指す。基盤の整備・再構築を進め、成長軌道の歩みを確実なものとする。

1. Vision 『世界で活躍する人材の育成～私の未来は私が創る～』

- 瑞浪の広大なキャンパス・緑豊かな自然、他校に無い環境を活かし、従来の枠にとらわれない未来創造型教育を実現する
- ハイレベルな教育に加え、国際性や日本文化・スポーツ等を通じた多様性の学びを求め、日本全国・世界から生徒が集う学校を目指す

2. 中期経営計画（～2028 年度）

（1）人づくり戦略

- ① 建学の精神を基盤とした教育実践と教育観の深化
- ② 新設センター（グローバル&アドミッション）の役割の確立と組織運営力の向上
- ③ 「教職協同」の深化による、専門性を発揮できる環境の創出
- ④ 個の強みを生かす適材適所の配置と、自立的な成長の支援

（2）教育戦略

- ① 瑞浪の環境と外部連携を活かした「個の特性と志向に寄り添う学び」の展開
- ② 瑞浪が目指す「育てる生徒像」の具現化と、コース・国籍を越えた成長の共有
- ③ 社会に開かれた麗澤教育の実践と、教育成果の多角的な検証

（3）募集戦略

- ① 寮生募集体制の確立（塾との信頼関係構築、ナーチャリング施策）
- ② 帰国子女・留学生への個別対応（不安を解消し決断できる支援）
- ③ 推薦入学者募集の強化（部活、高校事前相談）

（4）経営戦略

- ① 生徒数増による収入増を安定化させる
- ② 無理・無駄の削減、省エネ等による支出の見直し
- ③ 夢のあるグランドデザイン立案（新寮など）に向けた始動

3. 事業計画（アクションプラン）

上記の中期経営計画に基づき、令和 8 年度は以下の事業計画を実行する。

各施策については教育成果や生徒の成長、募集成果等を多角的に検証しながら継続的な改善を図る。

（1）人づくり戦略

- ① 建学の精神を基盤とした教育実践と教育観の深化
 - A) アントレプレナーシップコース全寮制（自治寮）の仕組みづくりと運営体制の整備を行う
 - B) 自治寮の実現に向け、先進的な寮運営の事例調査や他校視察を通じて、生徒主体の寮運営を支える指導方法および教育的関わり方の理解を深める
 - C) 建学の精神に基づく教育実践の共有を目的とした教職員研修を実施する
- ② 教育・入試機能を担う新設センターの役割確立と組織運営力の向上
 - A) グローバル教育センターの設置により留学生対応および国際交流の運営体制を整備する
 - B) アドミッションセンターの設置により入試業務の集約化と入試運営の高度化を図る

- C) 教育活動の質向上および教員の業務負担軽減を目的として、教育支援機能の集約体制（教育支援センター等の設置構想を含む）の検討を行う
- ③ 「教職協同」の深化による、専門性を発揮できる環境の創出
 - A) 教員と事務職員の専門性を踏まえた役割分担を整理し、教職協同による教育活動の質向上を図る
 - B) 学校の生産性向上を目的に事務組織の業務分析を行い、瑞浪キャンパスの組織改組案を策定する
 - C) 教員と事務職員の相互理解と協働を促進し、教育活動を支える組織文化の醸成を図る
- ④ 個の強みを生かす適材適所の配置と、自立的な成長の支援
 - A) 教職員の専門性や個々の強み・適性を踏まえた配置方針の整理を行う
 - B) 若手教職員の育成を目的とした研修および OJT の充実を図る
 - C) 教職員の成長を支援する評価およびフィードバックの仕組みを検討するとともに、組織エンゲージメントの向上を図る

(2) 教育戦略

- ① 瑞浪の環境と外部連携を活かした「個の特性と志向に寄り添う学び」の展開
 - A) 探究科およびアントレプレナーシップコースにおいて、建学の精神を基盤とした理念接続型の探究活動・探究科目の開発検討を進める
 - B) 瑞浪キャンパスの自然環境や園内資源（ブルーベリー栽培、養蜂等）を活用した実践型学習の科目化を検討する
 - C) 大学・企業・地域団体と連携したプロジェクト型学習を推進する
- ② 瑞浪が目指す「育てる生徒像」の具現化と、コース・国籍を越えた成長の共有
 - A) 高大連携によるアントレプレナーシップコースの教育プログラムを整備する
 - B) 「100 人の大人プロジェクト」の仕組みづくりと運営体制の整備を行う
 - C) コースや国籍を越えた交流機会を創出し、生徒の成長共有を推進する
- ③ 社会に開かれた麗澤教育の実践と、教育成果の多角的な検証
 - A) 生徒の主体的活動を促進し、地域・企業・社会人との接点を創出する
 - B) DX ハイスクールの申請により教育環境の高度化を推進する
 - C) 国際交流（教育ツアープログラム）を実施し、教育効果の検証を行う
 - D) 外部指標を活用した非認知能力（ジェネリックスキル）の可視化を行い、教育成果の客観的分析と教育改善を推進する

(3) 募集戦略

- ① 寮生募集体制の確立と重点領域の強化
 - A) ターゲット塾のリスト化および訪問活動を通じて塾との関係強化を図る
 - B) ショート動画などの広報コンテンツを活用し来校率の向上を図る
 - C) 説明会・体験イベント等の内容を充実させ、アントレプレナーシップコースをはじめとする教育内容の認知向上と志願者獲得を推進する
- ② 帰国子女・留学生への個別対応
 - A) 日本人学校（台湾、タイ、ベトナム）への情報提供や説明会の実施する
 - B) 海外姉妹校および日本語学校との連携により認知拡大を図る
 - C) オンライン面談など個別相談体制を整備し志願者獲得を推進する
- ③ 推薦入学者募集の強化
 - A) 近隣中学校への説明会および情報提供により推薦志願者を獲得する
 - B) 強化指定部顧問によるスカウト活動を、組織的なバックアップの下で推進する
 - C) 教育内容および進学実績の訴求により選抜クラス志望者の増加を図る

(4) 経営戦略

- ① 生徒数増による収入増の安定化
 - A) 学費および寮費の改定、シミュレーションの精緻化により教育収支の赤字幅を縮小する
 - B) 募集戦略の確実な実施により募集定員の充足を目指す
- ② 無理・無駄の削減、省エネ等による支出の見直し
 - A) 固定費の見直しにより支出削減を推進する
 - B) 部門別支出分析を行い経費の適正化を図る
 - C) 省エネルギー施策の推進を図り、エネルギー使用の効率化と経費削減を進める
- ③ 夢のあるグランドデザイン立案に向けた始動
 - A) 施設整備の前提となる教育方針および学習環境のコンセプトを整理する
 - B) キャンパス施設の機能分類を行い、ゾーニングを検討する
 - C) 教育効果を高める施設活用の在り方を検討する

以 上

麗澤幼稚園

令和 8 年度事業計画

はじめに

中期経営計画の第 1 期（～2028 年度）では、持続可能な経営基盤の再構築を目標に掲げ、満三歳児教育の充実（定員確保）と組織・運営体制の見直し、コンパクト化の両立を進めていく。

1. Vision『世界につながる“こころ”を育てる幼稚園』

➤ 従前の Vision を継承しつつ、次の①～④のとおり言葉の意味や想いを再定義した。

- ① 日本人としてのアイデンティティの獲得
- ② 積極的に世界に繋がろうとする意欲を育てる
- ③ 自分で考える力を育む
- ④ 世界を知り、多様性への理解を育む

2. 中期経営計画（～2028 年度）

(1) 教育戦略

- ① 豊かな「体験」を通して「考える力」を育む教育プログラムの開発
- ② 保育プログラム（世界につながる「こころ」を育てる麗澤教育）の体系化・整理
- ③ 保育体制の見直し・整備

(2) 募集広報戦略

- ① 子育て世帯に向けた積極的・効果的な情報発信（SNS 等の積極活用）
- ② 行政、地元メディアや企業等との連携、オープンイベントの開催、など

(3) 人材育成・働き方改革

- ① 教員参加型の体験・考える力を育む教育プログラム開発、麗澤各校との連携・交流
- ② 教育理念・Vision・中期経営計画・グローアップシートに至る一貫通貫の評価体制
- ③ 組織改革と DX 化・業務外注化の推進

(4) 経営戦略

- ① 収入拡大への取組み
- ② 人員の適正化・人件費の抑制
- ③ 黒字化・収支の安定に向けた課題整理と対応検討

3. 事業計画（アクションプラン）

(1) 教育戦略

- ① 全学年による畑栽培体験および年長組の米づくり体験を実施し、活動内容を「田畑通信」（年 4 回）で保護者に発信し、家庭連携を強化する
- ② 足裏測定結果を踏まえ「はだし DAY」を実施し、足育を通して健やかな身体発達を促す
- ③ 幼稚園版言語技術教育の開発に向け研修を年 2 回実施し、日々の言語活動を整理・体系化する
- ④ 食育充実を目的に自園給食の導入可能性を研究し、教育効果・運営体制・コスト面から実施可否を検討する
- ⑤ 1 歳児保育開始に伴う課題を整理し、改善点を明確化して次年度へ反映する
- ⑥ 1 歳児保育は外部委託で継続実施し、将来的な定員確保につながる母集団形成を目的に、接触者数 0 歳児 240 組、1 歳児 250 組を目標とする

(2) 募集広報戦略

- ① 子育て世帯向けイベントを企画・実施し、年間 3 件実施することを目標とする
- ② SNS 活用を推進し、Instagram 年間 60 件、LINE 配信 15 件を実施する
- ③ 地元メディア・企業・行政・医療機関等との連携を継続し、年間 3 回のチラシ配架やイベント連携を実施する
- ④ 見学会・説明会・子育て支援事業を継続実施し、参加者情報を集約・管理する

(3) 人材育成・働き方改革

- ① 教員参加型のプログラム開発を通して、企画・運営を担える人材を育成する
- ② 教育理念・Vision・中計・グローアップシートを連動させた評価体制を構築し、アクションプランを反映する
- ③ 処遇改善加算区分 3 導入に向けたキャリアパスを策定し、必要研修の受講を奨励する

(4) 経営戦略

- ① 児童発達支援事業所設置の可能性を、多角的観点（理念・地域ニーズ・体制・収支）から検討し判断する
- ② 園児数および事業計画を踏まえ適正配置人数を再検討し、配置・採用計画を修正する
- ③ 財務経理課と協働し、収入構造・補助金活用状況を見直し、黒字化・収支安定化に向けた改善策を具体化する

以 上

Ⅱ．組織

1．役員・評議員（2026 年 4 月 1 日現在）

理事（定数 8～13 人、現員 13 人）

理 事 長 廣池幹堂

副理事長 長井孝介

常務理事 徳永澄憲、小西直之、廣池慶一

理 事 黒須里美、小林宏明、櫻井 譲、鈴木規子、槁本光世、藤田知則、松浪 進、
森光孝雅

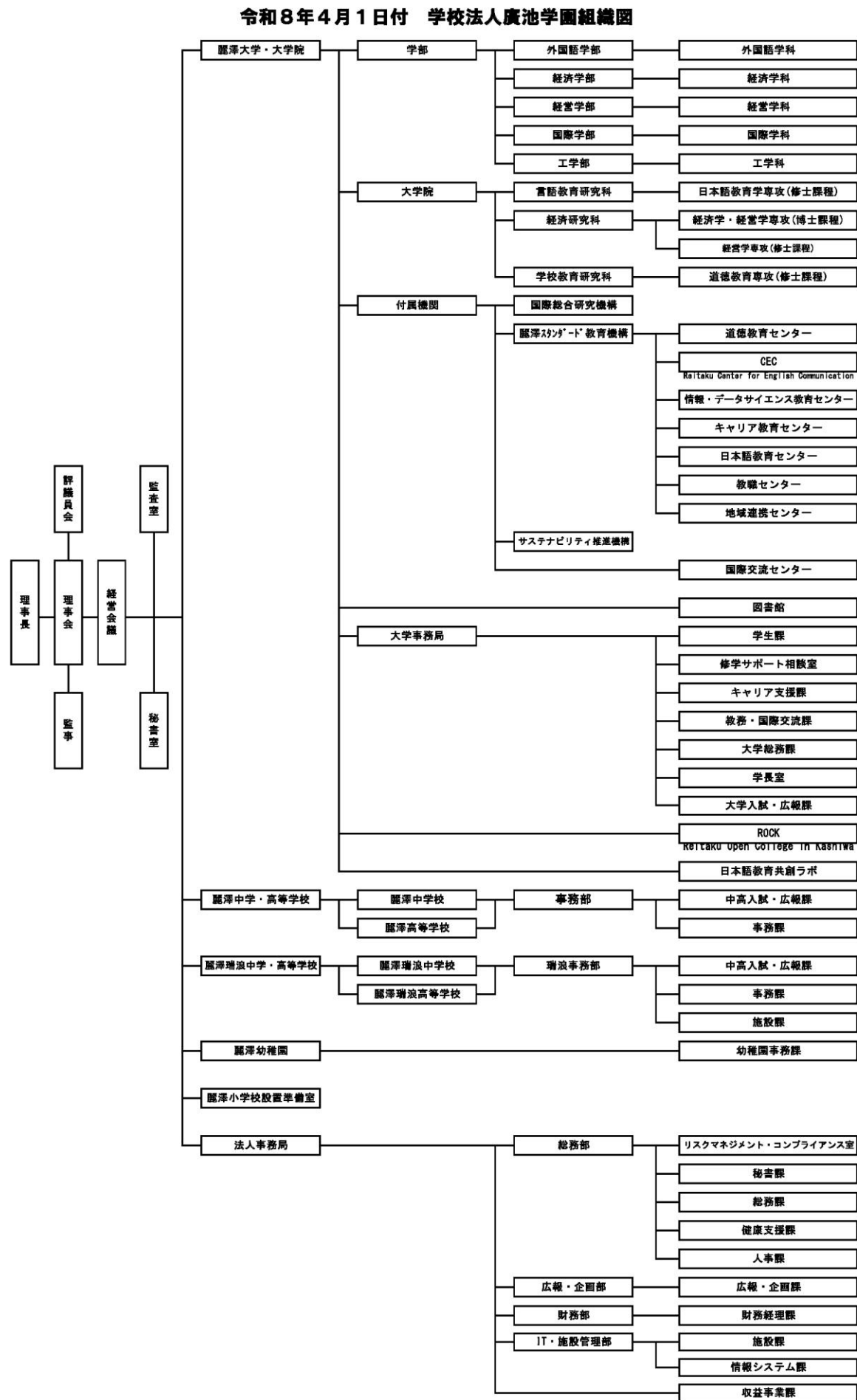
監事（定数 2～3 人、現員 3 人）

木津孝道、濱井利一、風澤俊夫

評議員（定数 9～15 人、現員 15 人）

岩澤知子、大石晃嗣、大久保静子、岡本卓也、唐木重典、菊田行紘、小松豊、近藤喜嗣、
澤田栄造、柴崎亮介、志水宏吉、鷺見仁美、西 裕康、長谷享治、渡邊 信

2. 組織図 (2026 年 4 月 1 日現在)



Ⅲ. 予算

1. 資金収支予算

資金収支予算書

令和 8年 4月 1日から
令和 9年 3月31日まで

(単位 円)

収入の部				
科	目	令和8年度予算	令和7年度予算	増 減
	学生生徒等納付金収入	5,202,824,000	5,019,771,000	183,053,000
	手数料収入	94,326,000	94,784,000	△ 458,000
	寄付金収入	386,178,000	532,667,000	△ 146,489,000
	補助金収入	1,781,416,000	1,822,102,000	△ 40,686,000
	資産売却収入	0	521,293,000	△ 521,293,000
	付随事業・収益事業収入	851,451,000	873,494,000	△ 22,043,000
	受取利息・配当金収入	217,361,000	199,000,000	18,361,000
	雑収入	140,020,000	122,364,000	17,656,000
	借入金等収入	0	0	0
	前受金収入	2,013,876,000	2,079,553,000	△ 65,677,000
	その他の収入	1,502,035,000	1,502,000,000	35,000
	資金収入調整勘定	△ 2,002,971,000	△ 2,079,613,000	76,642,000
	前年度繰越支払資金	4,356,746,000	4,303,726,000	53,020,000
	収入の部合計	14,543,262,000	14,991,141,000	△ 447,879,000
支出の部				
科	目	令和8年度予算	令和7年度予算	増 減
	人件費支出	4,205,593,000	4,248,114,000	△ 42,521,000
	教育研究経費支出	2,258,069,000	2,386,539,000	△ 128,470,000
	管理経費支出	1,489,539,000	1,355,594,000	133,945,000
	借入金等利息支出	0	0	0
	借入金等返済支出	0	0	0
	施設関係支出	894,003,100	860,092,000	33,911,100
	設備関係支出	103,995,500	172,852,000	△ 68,856,500
	資産運用支出	1,500,000,000	1,500,000,000	0
	その他の支出	48,298,000	51,789,607	△ 3,491,607
	〔予備費〕	20,000,000	20,000,000	0
	資金支出調整勘定	114,000	39,414,000	△ 39,300,000
	翌年度繰越支払資金	4,023,650,400	4,356,746,393	△ 333,095,993
	支出の部合計	14,543,262,000	14,991,141,000	△ 447,879,000

2. 事業活動収支予算

事業活動収支予算書

令和 8年 4月 1日から
令和 9年 3月31日まで

(単位 円)

教育活動収支	収入業の活動	科	目	令和8年度予算	令和7年度予算	増	減
		学生生徒等納付金		5,202,824,000	5,019,771,000	183,053,000	
		手数料		94,326,000	94,784,000	△	458,000
		寄付金		383,652,000	534,444,000	△	150,792,000
		経常費等補助金		1,771,416,000	1,812,102,000	△	40,686,000
		付随事業収入		846,451,000	865,494,000	△	19,043,000
		雑収入		140,020,000	121,926,000	18,094,000	
		教育活動収入計		8,438,689,000	8,448,521,000	△	9,832,000
	支出業の活動	科	目	令和8年度予算	令和7年度予算	増	減
		人件費		4,208,534,000	4,582,717,000	△	374,183,000
		教育研究経費		3,496,123,000	3,688,565,000	△	192,442,000
		管理経費		1,720,459,000	1,606,863,000	113,596,000	
		徴収不能額等		0	0	0	
		教育活動支出計		9,425,116,000	9,878,145,000	△	453,029,000
教育活動収支差額			△ 986,427,000	△ 1,429,624,000	443,197,000		
教育活動外収支	収入業の活動	科	目	令和8年度予算	令和7年度予算	増	減
		受取利息・配当金		217,361,000	199,000,000	18,361,000	
		その他の教育活動外収入		5,000,000	8,000,000	△	3,000,000
		教育活動外収入計		222,361,000	207,000,000	15,361,000	
	支出業の活動	科	目	令和8年度予算	令和7年度予算	増	減
		借入金等利息		0	0	0	
		その他の教育活動外支出		0	0	0	
		教育活動外支出計		0	0	0	
	教育活動外収支差額			222,361,000	207,000,000	15,361,000	
	経常収支差額			△ 764,066,000	△ 1,222,624,000	458,558,000	
特別収支	収入業の活動	科	目	令和8年度予算	令和7年度予算	増	減
		資産売却差額		0	17,160,000	△	17,160,000
		その他の特別収入		12,884,000	16,003,000	△	3,119,000
		特別収入計		12,884,000	33,163,000	△	20,279,000
	支出業の活動	科	目	令和8年度予算	令和7年度予算	増	減
		資産処分差額		0	0	0	
		その他の特別支出		0	352,100,000	△	352,100,000
		特別支出計		0	352,100,000	△	352,100,000
	特別収支差額			12,884,000	△ 318,937,000	331,821,000	
	〔予備費〕			20,000,000	20,000,000	0	
基本金組入前当年度収支差額			△ 771,182,000	△ 1,561,561,000	790,379,000		
基本金組入額合計			△ 22,913,000	△ 751,334,000	728,421,000		
当年度収支差額			△ 794,095,000	△ 2,312,895,000	1,518,800,000		
前年度繰越収支差額			0	△ 11,715,424,000	11,715,424,000		
基本金取崩額			7,698,000	1,623,609,000	△	1,615,911,000	
翌年度繰越収支差額			△ 786,397,000	△ 12,404,710,000	11,618,313,000		
(参考)							
事業活動収入計			8,673,934,000	8,688,684,000	△	14,750,000	
事業活動支出計			9,445,116,000	10,250,245,000	△	805,129,000	

以上